

佐々木絵里子（ささき・えりこ）先生（わたす研究所代表）略歴

☆ 埼玉県春日部市出身。

公益財団法人東京財団に約 10 年勤務（うち 2 年内閣府出向）し、国際交流・まちづくりなどのプログラム開発に従事。結婚を機に退職し、夫の住む藤里町に移住。

約 3 年の専業主婦ののち、地域女性のワークシェアプロジェクトを町役場と協働で企画運営。同プロジェクトの終了に伴い、2022 年「わたす研究所」として独立。

藤里町教育委員会委員も兼務。

プライベートでは 2 児の母。趣味は旅行や音楽を聴くこと。

■わたす研究所の活動内容

藤里町を中心に能代山本に暮らす子育て中の女性たちが、テレワークの技術・手法を活用し、情報発信や事務作業、調査業務などを分担しながら行う「ワークシェア」を実践。仕事の選択肢が限られる地方でも、それぞれの暮らしに合った働き方をみんなで作っていくとともに、地域への関わりしるをを広げることを目指しています。

*今回講演『地方でも自分に合う働き方を作ろう』について

この取組の原点には、女性たちの「できれば子どもの近くで働きたい」「本当はやってみたいことがある」「地域の役に立ちたい」といった声があります。「わたし」らしい暮らしや仕事のかたちを考え作っていくことで、次の世代によりよい地域や社会を「わたして」いきたい、そんな私たちの活動をご紹介します。



オフィスでママは仕事・子どもは宿題



パンフレット作成のための編集会議



イベントで受付対応の仕事

わたす研究所のワークシェア

- お勤めではなく委託契約 : 時間と場所に縛られない
- 可能な限りテレワーク : 他の仕事や家事育児介護などの合間でもできる
- しごとを切り分けて分担 : ちよとだけでも関われる
- チームで引き受ける : 不測の事態をフォローしあう&ひとりにしない

